

平成25年度

# 事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング  
特別養護老人ホーム 新とみ  
短期入所生活介護 新とみ  
通所介護 新とみ

## 1 法人関係

### (1) 理事会・評議員会開催状況

平成 25 年 5 月 26 日	第 1 回	理事会・第 1 回	評議員会
平成 25 年 7 月 15 日	第 2 回	理事会・第 2 回	評議員会
平成 25 年 9 月 1 日	第 3 回	理事会・第 3 回	評議員会
平成 25 年 11 月 3 日	第 4 回	理事会・第 4 回	評議員会
平成 25 年 12 月 22 日	第 5 回	理事会・第 5 回	評議員会
平成 26 年 3 月 21 日	第 6 回	理事会・第 6 回	評議員会

### (2) 審議内容

第 1 回	平成 24 年度事業報告、平成 24 年度決算報告、その他
第 2 回	平成 25 年 新とみ大規模改修、その他
第 3 回	大規模改修入札結果報告、常勤職員就業規則変更、その他
第 4 回	改修工事の締結について
第 5 回	平成 25 年度第 1 次補正予算、その他
第 6 回	平成 26 年度事業計画、平成 26 年度予算、その他

## 2 特別養護老人ホーム 新とみ

### (1) はじめに

本年度も定員 40 名に対し、満床月はなく、月平均入所者実人員は 34.4 人であった。また、長期入院などによる退所者が 8 名あり、年々入所者の入院実績も高くなってきている。入所者は 14 名である。年度末現在の入所者の平均年齢は、男性 77.0 歳、女性 89.3 歳であり、男女合計の平均年齢は 88.4 歳である。なお、特養の年間平均稼働率は 86.27% であった。24 年度 77.55 に比べると、稼働率は 10% 近く上がっている。これは、退所者と、入所者の調整がスムーズに行われた結果である。(別表 1 参照)

満床月がなかったのは、常に 2~3 名の入院者がいたためである。空床はショートステイのベッドとして利用しているので、稼働率は 108.88% と高い数字になっている。

### (2) 事業実績について

利用者の平均介護度は 24 年度の 4.26 に対し、25 年度は 4.16 とやや低くなっている。(別表 2 参照) 特養での対策としては、適切な健康管理の下で一層の介護の充実を図るとともに、入所者の事故や病気のための入院を極力抑えることである。

そのため、①健康管理への配慮 ②衛生管理の徹底 ③日常生活での異変に対する応急処置の徹底等が挙げられる。25 年度においてもインフルエンザやノロウイルスの流行に備え、空気除菌清浄機の活用、居室等への除菌剤の配置などを強化した結果、感染症の発生はほぼゼロにおさえられた。

### (3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組んだ。特に、東北での震災をふまえての防災訓練や消火設備の見直し、事務所を始め、各フロアへ備品（カンテラ、懐中電灯他）、備蓄品（飲料水、栄養補助食品他）を配分し、緊急時への備えを厚くした。更に法人作成のBCPの周知徹底を行った。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動、各種の行事やボランティアの積極的な活用を行い、入所者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努力した。レクリエーションでは、セラピードッグ、音楽療法、書道、そろばん、チェアピクス等々、心身機能の維持に重点を置いたプログラムの活動に意欲的に取り組んできた。リハビリテーションは、機能訓練担当の看護師、介護職、理学療法士、言語聴覚士、栄養士との協働により、身体、嚥下、言語等、更に充実したリハビリを実施することができた。また、7月には地域有志の協力による「和太鼓」や盆踊りの催し、8月には傾聴ボランティアによる尺八演奏などが行われた。お誕生日会は各月25日に行っており、主催委員による各種レクリエーションを毎月バラエティに執り行っている。

## 3 短期入所生活介護 新とみ

### (1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば、昨年に続き比較的利用しやすい状況であった。区内の方については、最長で30日間までの利用が可能である。ショートステイの利用は、抽選による予約での利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養入所者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供している。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげている。

周囲の経営環境としては、区立特養「マイホームはるみ」「マイホーム新川」、区立の老健施設の6ヶ月長期利用、ユニット型特養「晴海苑」、そして平成25年11月開設した地域密着型特養「ケアサポートセンターつきしま」等、年々経営環境は厳しい状況にある。が、別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は前年度の104.50%に対して、25年度は108.88%と約4%の増加となっており、過去最高の稼働率である。これは、特養の稼働率の上昇及び、ショートステイの安定した稼働率の結果である。別表5にあるようにショートステイ単独での年間稼働率は、259.59%である。

### (2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヅ ドアの実現）。

介護：身体の状況に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移

動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供している。

入浴：週3回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行なっている。

機能回復訓練：個別機能回復訓練、機能訓練指導員による集合訓練・レクリエーション・音楽療法・セラピードッグなど。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導。

胃ろう、ストマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応

### (3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決した。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。
- ・希望する日にショートステイが混んでいて予約できない。

### (4) 一年の状況と今後の課題

連休や行事のある時など、ご希望の日にちに予約しづらくなっているという現状がある。抽選に漏れてしまった方についても、キャンセル待ちの登録など、空きベッドが出た時にすぐ利用できるような連絡体制の確立と情報の提供を徹底していくことが必要である。また、相談の中で目立っていたのが衣類の紛失と退所時に他人の衣類が紛れ込んでいることであった。原因としては、洗濯の業者に誤って出してしまう回収に間に合わなかったことや他の利用者のもとと混同してしまうということなどが挙げられた。そのため、衣類に名前を付けることや分類を徹底するなど紛失の防止と他人の衣類の混同防止に努めた。今後は、リースによる衣類の活用等についても検討してみる必要があるかも知れない。さらに昨年に引き続き、今年度も胃ろう、ストーマ、インスリン注射、在宅酸素等の医療的対応を必要とする利用者が著しく増えた。今後も医療対応の利用者は増え続けることが予想され、これに伴い職員のケアの質の向上が今後の課題とされるところである。

いずれにしても、引き続きひとりひとりの状況にあわせたきめ細かいケアを行えるように、個々のニーズの把握に努め、今後も、また利用したいと思って頂けるようなサービスを提供すべくサービスの質の向上に努めていきたい。

## 4 通所介護 新とみ

### (1) 利用者の状況

23年度はデイサービス見直し編成の年度でもあった。22年より、23年度にかけて利用者数の落ち込みが著しくみられた。その要因として、利用者のデイサービスへの

ニーズが、リハビリへと変わっていったことがあげられる。従来型のデイサービスからリハビリ型のデイサービスへと、利用者の意識の変化も顕著であり、家族もまた「リハビリのできるデイサービス」への期待を大きくした。

「新とみ」ではこうした利用者、家族のニーズを受け、23年4月より理学療法士を配置し、毎曜日利用者が個別にリハビリを受けられる体制を整えた。外部的には居宅介護支援事業所等にリハビリの案内チラシを配布、またデイサービス見学者、体験者を積極的に受け入れ、リハビリ体験を試みた。こうした外部へのはたらきかけが功を奏し、利用者は徐々に増えていった。今年度も利用者の半数以上がリハビリを目的としていることもあり、男性の利用者が増え続けている。更に、身体のみならず、言語においてもニーズは高く、本年度は言語聴覚士を配置し、身体、言語の両面で利用者支援する体制を整えた。周辺環境としては、リハビリ専門のデイサービスが次々と開設し、競争激化の状況である。

医療的対応については昨年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者がさらに増えていることがあげられる。胃ろう1名、ストーマ2名、インスリン5名、バルーンカテーテル4名、痰吸引他、これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに努めている。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題である。

25年度の利用実人員は別表8のとおり1,334名、利用実人員は前年度と比べて16名減少した。また、延べ利用回数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均7.46回となり、前年とほぼ同様に推移している。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では79.4歳となっている。内訳では男性76.4歳、女性82.9歳で、ほぼ前年と同様である。

なお、デイサービスに係わる送迎利用率は95%、入浴利用率は90%となっている。送迎車両については、赤い羽根共同募金による補助金を活用して、福祉車両1台を増設した。

前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率をさらに上げることが必要である。

## (2) 運営状況

### ①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、葛蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催している。また、食事サービスやお買い物代行などの在宅生活支援のための活動は継続中である。22年度から始まった朝食サービスは、今年度も利用者や家族から好評を得ており、利用人数を増やしている。更に今年度は、延長サービスも実施。夕食後、午後7時過ぎに送迎車で利用者を自宅まで送り届ける。朝食サービスから、延長サービスまで、これらのサービス利用により、家族の負担軽減、且つ、在宅での生活維持を可能にしているといえる。リハビリにおいては、周辺の

リハビリ専門デイサービスの増加により、年々競争激化が想定され、特徴あるリハビリが求められる。

日々のプログラムは、音楽療法、セラピードック、書道、折り紙、朗読、ファッションショー、和太鼓、そろばん教室、介護予防運動、相撲甚句、歌、アロマセラピー等、地域や企業のボランティアの支援のもと息長く継続されている。平成20年11月にスタートした「若年認知症デイサービス」は、一昨年度より「練馬若年認知症サポートセンター」へ活動の拠点を移行した。新とみデイサービスと連携しつつ、新たな取り組みを試みている。

この他、当期中に行った主な行事は以下の(表1)とおりでである。

(表1)

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルファッションショー ボランティアの方々によるリサイクルファッションのショー</li> <li>・タイ古式マッサージ(女性1名) マッサージ師のボランティアによる</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正琴(女性4名) 季節の唱歌から懐かしい歌謡曲まで演奏 「こいのぼり、荒城の月、湖畔の等」</li> <li>・相撲甚句(男性2名) 力強い相撲甚句が朗々と響き渡った</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノコンサート(女性1名) クラシックからなつメロまで</li> <li>・詩吟教室 詩吟の先生によるご指導</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盆踊り大会(地区の女性ボランティア4名) 和太鼓に合わせて、浴衣姿のボランティアの季節感溢れる盆踊り、利用者も参加しての賑やかなひと時だった</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルファッションショー(女性5名)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンナリアンコーラス(男性5名、女性4名) 敬老の日にちなんで、懐かしい歌謡曲や名曲の数々を皆で歌った</li> <li>・ピアノコンサート(女性1名) ピアノで敬老の日を祝った</li> <li>・中央区福祉健康祭り参加(2回目) そろばん教室開催</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相撲甚句(男性2名)</li> <li>・大正琴(女性4名) 「有楽町で逢いましょう他」</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出レク:紅葉狩り 希望者を募って辰巳の森まで小遠足(参加者26名)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスコンサート ライオンズクラブ主催による、恒例のクリスマスコンサート。</li> <li>・セラピードッグ 訓練された犬によるふれあいと癒しの集い</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読会(女性6名)</li> <li>・外出レク:思い出の地めぐりツアー スカイツリーから業平橋へ(参加者30名)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルファッションショー(女性5名)</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会(参加家族他28名) 定例の家族会。特養、ショート、デイ利用者の家族とともに、会食、歓談の時間を持った</li> </ul>

・傾聴ボランティア（3名） 仏教総合研究所「ボランティア・プロジェクトダーナ東京」 所属のお坊さんたちが来所。約1時間、優しい時間を利用者と共に共有された
--

## ②ボランティア、実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化およびヘルパー2級の実習の場として受け入れをした。定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、詩吟ボランティアが年12回、折り紙ボランティアが年6回、その他2回である。ヘルパー2級の実習生はデイでは、1年間で67名を受け入れている。特養では、毎週水曜日に洗濯物整理のボランティアをはじめ、地域の多くの方々のご協力をいただいている。また、ヘルパー2級、社会福祉士取得に向けた実習生は一年間に85名を受け入れている。

## ③入浴・機能訓練

デイサービス利用理由の大きな1つとして入浴がある。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は90%である。

また、機能訓練に関しては、今年度は理学療法士、言語聴覚士を配置、利用者一人ひとりの心身に寄り添った、きめ細かな個別機能訓練を実施し、自己実現を試みている。

## 5 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し、①年中行事委員会、②栄養委員会、③身体拘束廃止委員会、④排泄・褥瘡委員会、⑤ケアプラン委員会、⑥感染症対策委員会、⑦事故防止対策委員会、⑧防災対策委員会、⑨リハビリ委員会、⑩環境・口腔ケア委員会、⑪安全・衛生委員会（介護職のための）等を開催した。20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催している。

## 6 行事

3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して（前掲表1参照）各種行事に取り組んだ。

## 7 健康管理

新しく入所する利用者には、入所時に診療情報を提出してもらい、定期診断についても、移動診断を依頼し、館内にてレントゲン撮影等を受診した。また、11月にはインフルエンザ予防接種の同意を得られた方について嘱託医による実施をした。同時に、適度な室温と湿度の維持、消毒液による手指の清掃等の取り組みを徹底した。日常のケアについても、嘱託医による週1回の往診に加えて、診察が必要な方については、通院の便宜を最大限図るようにしている。

## 8 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団に新たに2名の職員が加わり、3名の入団となった。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に努めた。また、新規に採用された職員については、消防機器訓練を随時実施している。さらに、京橋消防署への研修参加のほか、地域等の協力も得て、毎月一回「震災・消防訓練」を実施している。

## 9 職員研修

5月～7月：介護職員スキルアップ研修

7月～10月：介護福祉士実習指導者講習

10月～3月：法人の取り組む課題解決型雇用環境整美事業による、職員のメンタル及び資質向上の研修を実施

No.	名称	開催日	人数	備考
	介護福祉士実習指導者講習	7/27, 8/24, 9/28, 10/26	3名	職場内研修 講師：東京福祉保育専門学校
	介護職員スキルアップ研修	5/6, 5/13, 5/20, 5/27, 6/3, 6/10, 6/18, 6/25, 7/2, 7/9	6名	職場内研修 講師：東京福祉保育専門学校
	〃	9/2, 9/9, 9/16, 9/23, 9/30, 10/7, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5	6名	〃
	経営安定化を目指した組織運営と目標管理	3/17	2名	主催：東京都社会福祉協議会
	組織マネジメント研修	3/29	5名	職場内研修（なりひらホーム）
	組織マネジメント研修	3/31	2名	職場内研修
	組織マネジメント研修	3/31	2名	職場内研修
	メンタルヘルス研修	3/31	12名	職場内研修（京橋プラザ区民館）

以上



(別表1)

## &lt;年度末平均年齢&gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	5名	77.0	69～83
女	31名	89.3	74～99
(全体)	36名	88.4	69～99

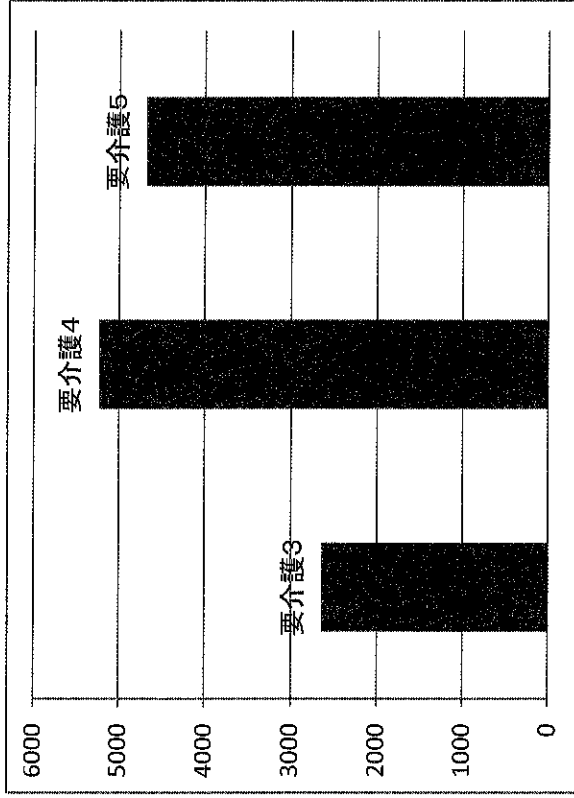
(別表2)

## &lt;月別利用者の状況&gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護2	0	0	2	0	23	0	0	0	0	0	0	0	25
要介護3	180	186	208	217	217	210	217	240	248	248	224	248	2643
要介護4	403	434	395	465	434	437	434	390	437	490	443	477	5239
要介護5	384	411	404	375	372	375	434	420	427	379	336	372	4689
計	967	1,031	1,009	1,057	1,046	1,022	1,085	1,050	1,112	1,117	1,003	1,097	12596
要介護平均	4.21	4.22	4.19	4.15	4.10	4.16	4.20	4.17	4.16	4.12	4.11	4.11	4.16
実人員	34	35	35	35	34	35	35	35	37	37	36	36	424
述べ定員数	1200	1240	1200	1240	1240	1200	1240	1200	1240	1240	1120	1240	14,600
1日平均利用者数(人)	32.2	33.2	33.6	34.1	33.7	34.1	35.0	35.0	35.8	36.0	35.8	35.4	34.4
稼働率	80.58%	83.15%	84.08%	85.24%	84.35%	85.17%	87.50%	87.50%	89.68%	90.08%	89.55%	88.47%	86.27%

特長(定員40名)

(別表3)



(別表4)

&lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	21名	80.9	48～99
女	35名	86.0	69～97
(全体)	56名	84.1	48～99

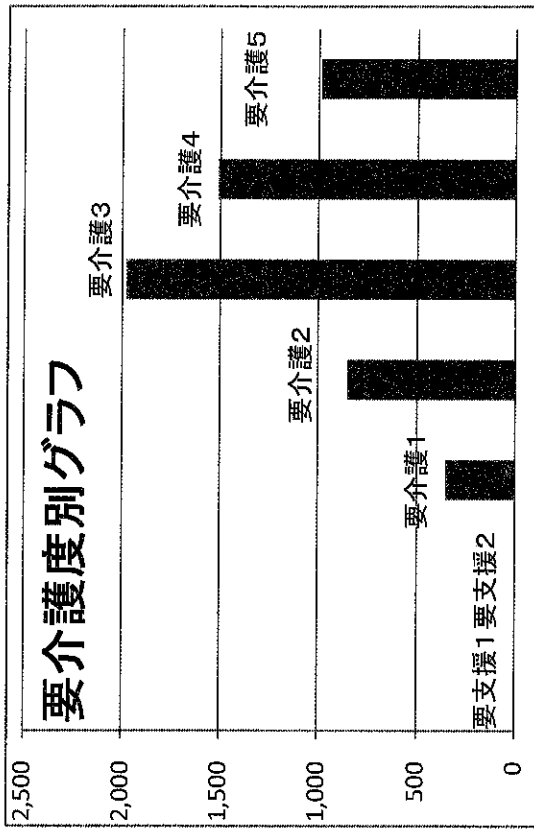
(別表5)

&lt; 月別利用者の状況 &gt;

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1																
要支援2																0
要介護1	25	23	31	25	30	23	30	40	31	25	31	23	49	34	22	354
要介護2	90	53	51	58	60	53	60	63	51	58	80	118	52	34	108	852
要介護3	227	200	173	132	203	218	203	187	173	132	149	130	124	121	115	1,979
要介護4	110	106	132	134	86	89	86	121	132	134	145	153	129	135	170	1,510
要介護5	140	114	78	66	77	107	77	70	78	66	75	71	73	57	62	990
計	592	526	465	415	456	490	456	481	465	415	480	495	427	381	477	5,685
要介護平均	3.42	3.39	3.38	3.38	3.26	3.42	3.26	3.25	3.38	3.38	3.32	3.26	3.29	3.39	3.30	3.34
実人員	75	65	63	58	59	66	59	61	63	58	63	67	57	51	56	741
述べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(A)	19.7	17.0	15.5	13.4	14.7	16.3	14.7	15.5	15.5	13.4	16.0	16.0	13.8	13.6	15.4	15.5
稼働率	328.89%	282.80%	272.22%	223.12%	245.16%	272.22%	245.16%	258.60%	258.33%	223.12%	266.67%	266.13%	229.57%	226.79%	256.45%	259.59%

(別表6)

## 要介護度別グラフ



(別表7)

&lt; 年度末平均年齢 &gt;

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	46名	76.4	48～99
女	62名	82.9	51～97
(全体)	108名	79.4	48～99

(別表8)

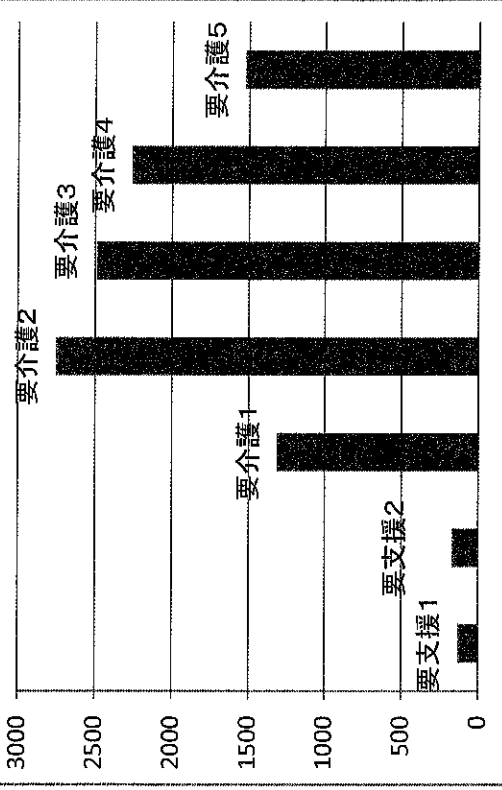
&lt; 月別利用者の状況 &gt;

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	10	14	11	11	13	11	14	10	15	11	4	6	130
要支援2	12	7	11	20	22	17	17	8	9	10	11	22	166
要介護1	118	101	132	115	117	116	103	98	104	117	83	111	1,315
要介護2	214	260	245	265	258	219	210	230	223	232	192	206	2,754
要介護3	233	243	213	191	172	162	180	201	221	222	199	250	2,487
要介護4	188	184	177	192	196	191	173	173	183	210	188	208	2,263
要介護5	89	107	147	151	129	142	142	121	128	115	119	137	1,527
計	864	916	936	945	907	858	839	841	883	917	796	940	10,642
要介護平均	2.83	2.86	2.89	2.90	2.84	2.93	2.94	2.92	2.93	2.90	3.03	2.97	2.91
実人員	115	120	118	116	111	107	105	106	110	114	104	108	1,334
述べ定員数	1,140	1,178	1,140	1,178	1,178	1,140	1,178	1,140	1,178	1,178	1,064	1,178	13,870
1日平均利用者数(人)	28.8	29.5	31.2	30.5	29.3	28.6	27.1	28.0	28.5	29.6	27.4	30.3	29.2
稼働率	75.79%	77.76%	82.11%	80.22%	76.99%	75.26%	71.22%	73.77%	74.96%	77.84%	74.81%	79.80%	76.73%

※平成20年10月20日より、定員35名から38名へ変更

(別表9)

## 要介護度別グラフ



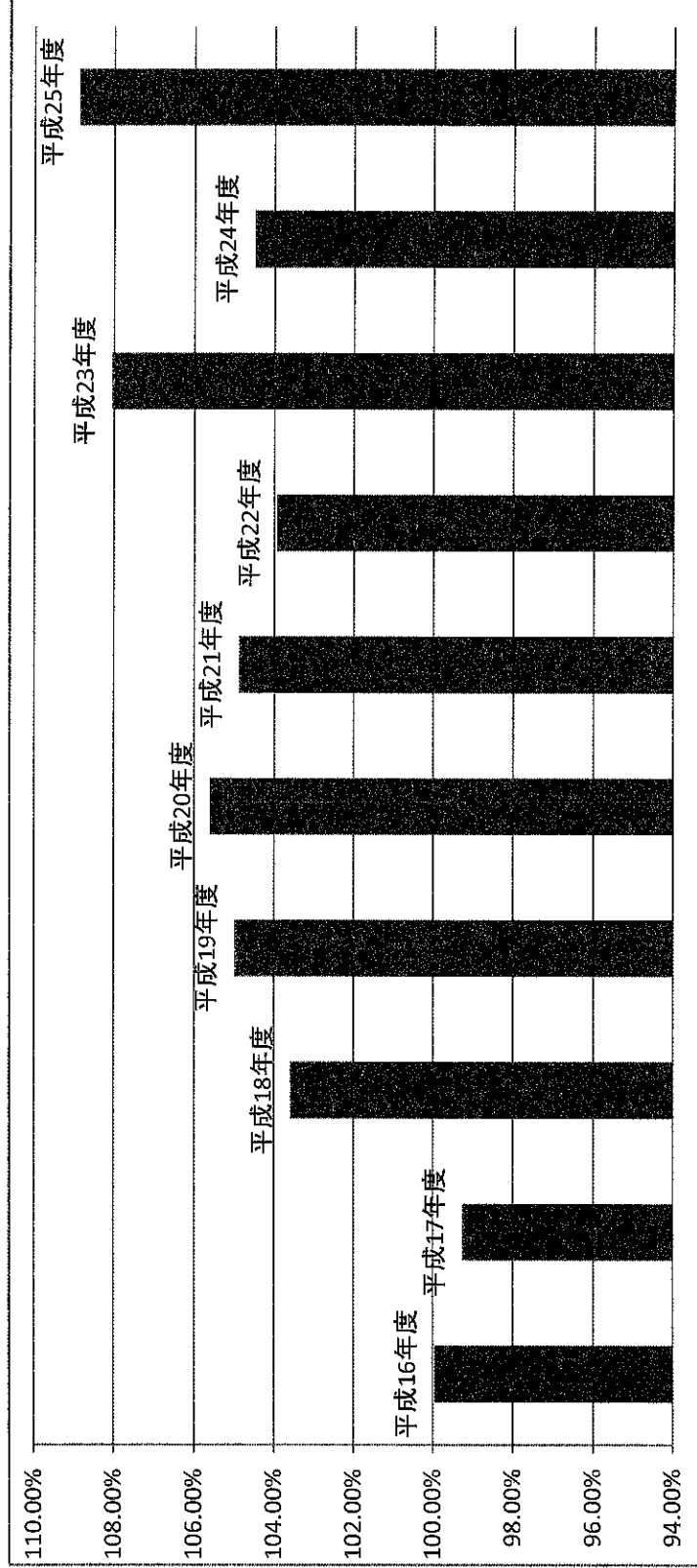
(別表9)

(別表10) <月別稼働率>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	967	1,031	1,009	1,057	1,046	1,022	1,085	1,050	1,112	1,117	1,003	1,097	12,596
ショートステイ	592	526	490	456	481	465	415	480	495	427	381	477	5,685
計	1,559	1,557	1,499	1,513	1,527	1,487	1,500	1,530	1,607	1,544	1,384	1,574	18,281
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
稼働率	112.97%	109.19%	108.62%	106.10%	107.08%	107.75%	105.19%	110.87%	112.69%	108.27%	107.45%	110.38%	108.88%

特養：ショート（定員46名）

(別表11)



稼働率	16年度	99.96%	17年度	99.26%	18年度	103.59%	19年度	104.99%	20年度	105.61%	21年度	104.88%	22年度	103.93%	23年度	108.05%	24年度	104.50%	25年度	108.88%
-----	------	--------	------	--------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------	------	---------